

平成17年

県民歯科疾患実態調査結果 ダイジェスト版



歯科保健キャラクター

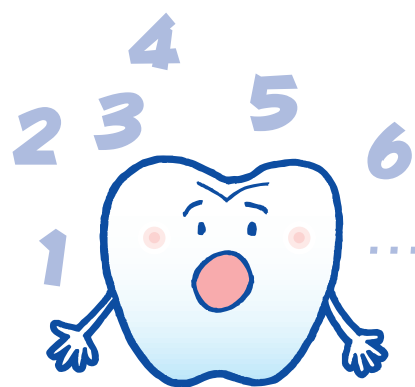
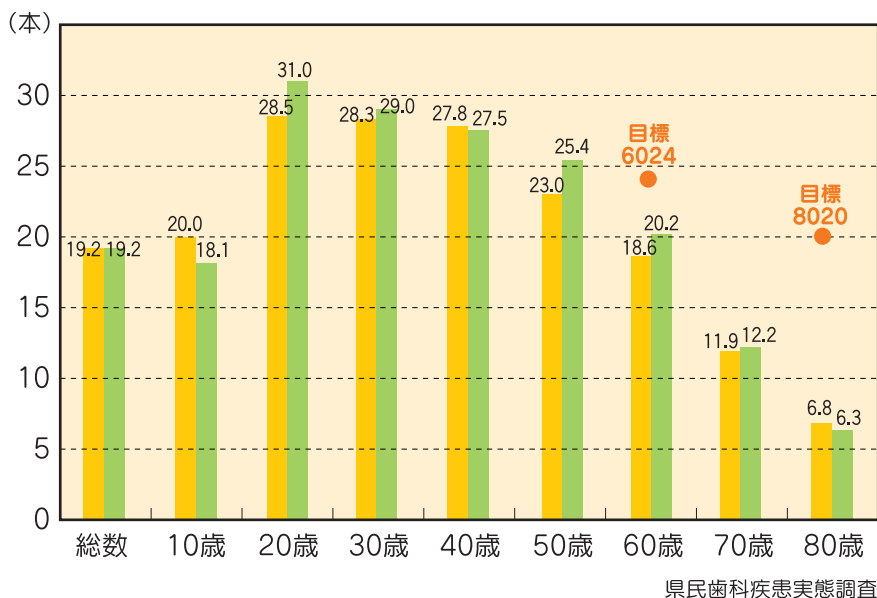
“ヤマちゃん”

山口県健康福祉部

残っている歯のようす(1人平均)

成人の歯は28本(親しらずを入れて32本)ですが、40歳頃から歯の減少がはじまり、50歳頃から歯を失うことが多くなります。

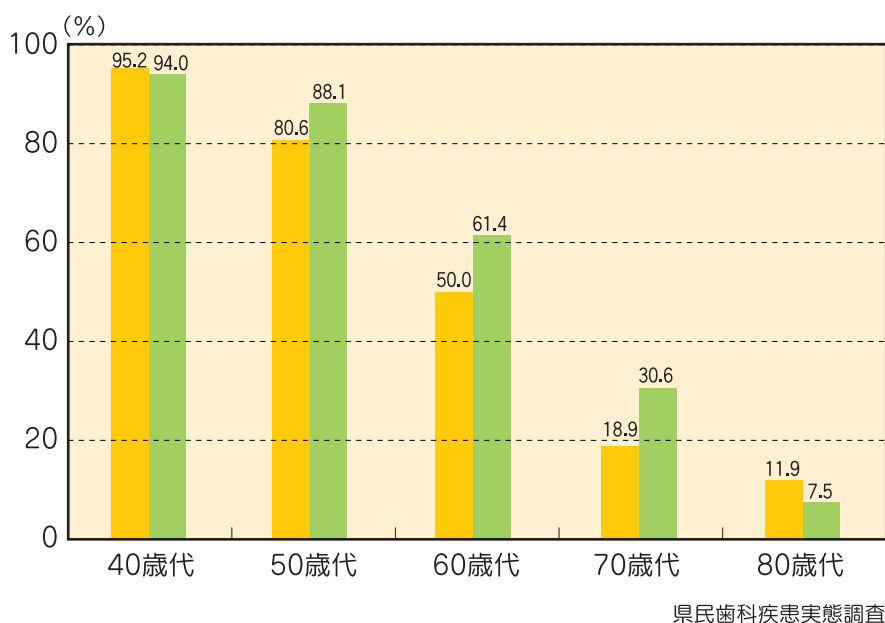
80歳になっても自分の歯を20本以上保つことを目標とした「8020運動」をすすめています。80歳で残っている歯は6~7本であり、8020運動の一層の推進が必要です。



歯が20本以上ある人

50歳代から70歳代では、自分の歯が20本以上ある人が増えています。

20本以上の歯があれば、ほとんどの食べ物はよくかめて、おいしく食べることができるといわれています。若い頃からの歯の健康管理が大切です

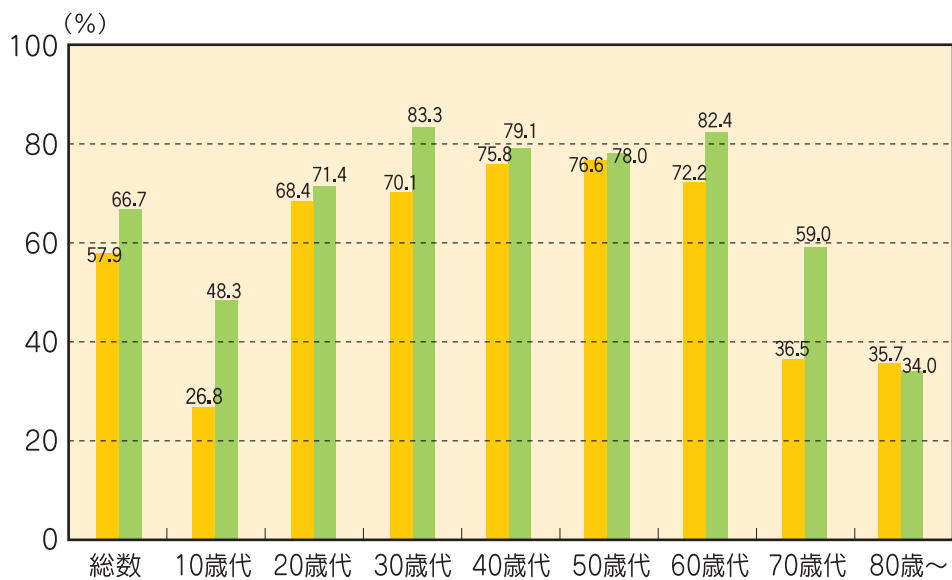


歯周病に罹患しているようす

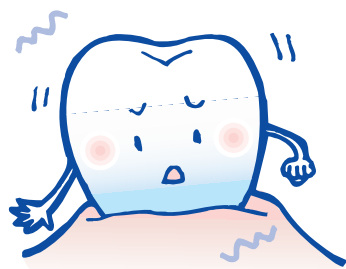
30歳代～60歳代では、約80%の人に歯肉(歯ぐき)に炎症があります。

歯周病になると、歯を支えている歯肉や骨(歯槽骨)などの歯周組織、特に骨が破壊されると歯はぐらつき、ついには抜けてしまいます。

「歯周病」を予防するためには、毎日のブラッシングで口の中を清潔に保つことが大切です。



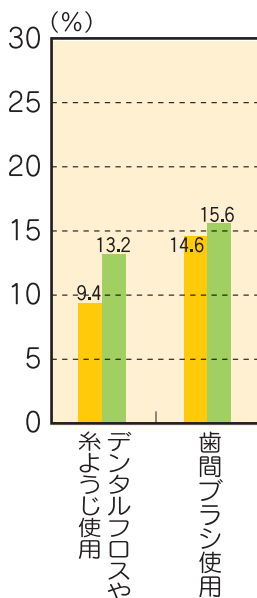
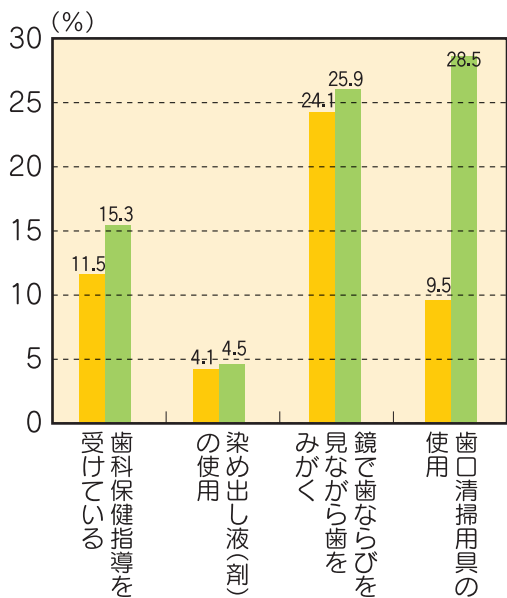
県民歯科疾患実態調査



正しい歯みがき行動をしている人

正しい歯みがきを行うために、歯ブラシ以外の歯口清掃用具を使用する人が増えています。特に、デンタルフロスや糸ようじ、歯間ブラシを使用している人が増えています。

自分の歯ならびにあったブラッシング方法で、歯ブラシ以外の歯口清掃用具も使用して歯をみがくことも必要です。



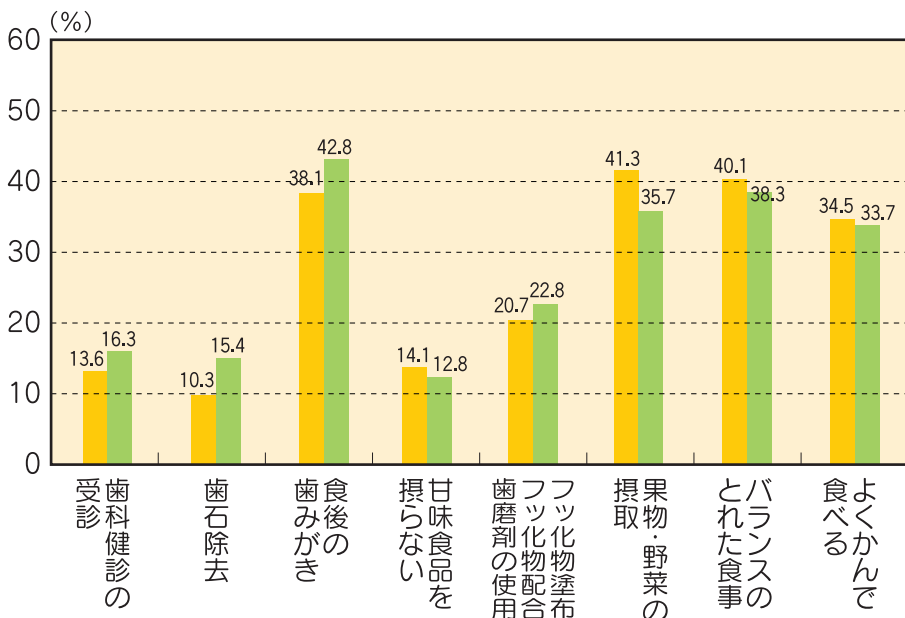
県民歯科疾患実態調査



歯の健康に注意している人

食後の歯みがきや歯科健診を受けるようにしているなど、歯の健康に注意している人が増えています。

お口の管理は、個人が行うセルフケアと併せてプロフェッショナルケアが重要となります。

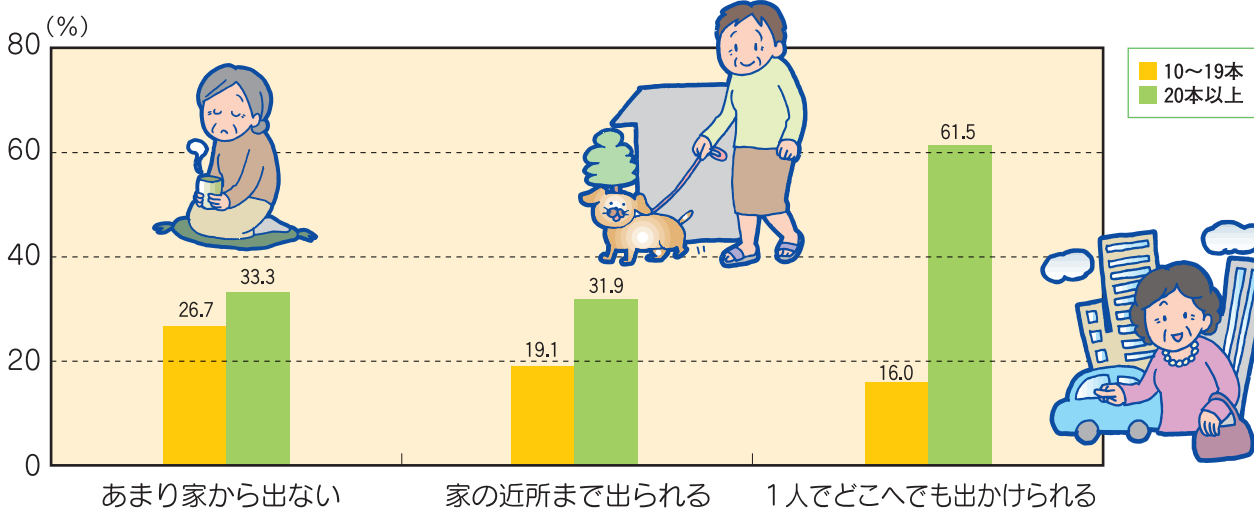


県民歯科疾患実態調査

毎日楽しく過ごすために

40歳以上の方は、歯の健康な人ほど外へ出かける行動をしています。

毎日楽しく、いきいきと過ごすためにも健康な歯を保つように心がけましょう。



平成17年県民歯科疾患実態調査

歯を失う主な原因は、う歯(むし歯)と歯周病です。

口腔疾患は、全身の健康にも影響があるといわれています。日頃から自分自身で口腔ケアに心がけ、かかりつけ歯科医をもち、定期的な歯科健康診査や歯科保健指導を受けて、生涯を通じた歯・お口の健康づくりに努めましょう。